



内定者の声

令和7年度入省予定

一般職自然系

はじめに

この度は、令和7年度『内定者の声』をご覧いただきありがとうございます。

この冊子は環境省自然系職員、通称レンジャーの内定者がこれまでどのように就職活動を行ってきたのか、その体験談や情報をまとめたものです。

私たち生物と環境は切っても切れない、いわば相棒のような存在です。そのような存在を守るため、レンジャーは生物多様性の保全、国立公園の保護管理、希少種の保全や外来生物対策、施設整備を通して、日本の環境をよりよいものにし、次世代へと引き継ぐ役割を担っています。

レンジャーの仕事が多岐にわたるように、内定者も様々な分野や境遇から集まりました。皆さんも様々な思いで本冊子をご覧になっていると思います。この『内定者の声』を通してより多くの方に環境省のレンジャーにご興味を持っていただき、進路選択や就職活動の一助になれば幸いです。

令和7年度環境省入省予定
一般職自然系内定者一同

※こちらの情報は令和6年度のもので、令和7年度以降の国家公務員試験、官庁訪問のスケジュールは、人事院や環境省のホームページでご確認ください。

目次

はじめに	1
基礎情報	3
内定者の概要	6
内定者からの情報	8
内定者 A	8
内定者 B	10
内定者 C	12
内定者 D	14
内定者 E	16
内定者 F	18
内定者 G	20
内定者 H	23
内定者 I	25
内定者 J	27
内定者 K	30
内定者 L	33
内定者 M	35
内定者 N	37
内定者 O	39
巻末資料	41
おわりに	43

基礎情報

｜ 国家公務員一般職試験および内定までの流れ（令和 6 年度の場合）

日時	人事院	環境省	ひとこと
(令和 6 年) 2 月 1 日～	国家公務員試験の受験案内が HP に掲載		試験日程や試験内容等が変更される可能性あり。内容をよく確認しよう。
2 月 22 日～ 3 月 25 日	インターネットによる受験申込受付期間		申し込みが必要。 期日までに余裕を持って申し込もう。
6 月 2 日	第 1 次試験（筆記）		多肢選択式＋記述式。 服装は私服で OK。
6 月上旬		環境省 HP で官庁訪問予約受付案内	
6 月 26 日	第 1 次試験合格者発表	官庁訪問予約受付開始	【人】HP で確認。合格通知書はパーソナルレコードからダウンロード。 【環】環境省 HP を事前に確認。訪問者カード（早めに準備するのがおすすめ）を作成し、メールで送る。
7 月 2 日		官庁訪問 1 日目	対面面接。
7 月 3 日		官庁訪問 2 日目	対面面接。
7 月 4 日		官庁訪問 3 日目	対面面接。
7 月 10 日～ 7 月 26 日	第 2 次試験（人物）		人事院の面接試験。 第 1 次試験合格通知書で指定の日時・場所で実施。
7 月 30 日		官庁訪問 4 日目	対面面接。
7 月 31 日		官庁訪問 5 日目	対面面接。
8 月 13 日	最終合格者発表	採用内々定解禁 →最終面接の案内	【人】HP で確認。合格通知書はパーソナルレコードからダウンロード。 【環】採用内々定と最終面接の案内がそれぞれ電話とメールで伝えられる。
10 月 1 日		最終面接 → 内定式	最後の面接。

※こちらの情報は令和 6 年度のもので、令和 7 年度以降の国家公務員試験、官庁訪問のスケジュールは、人事院や環境省のホームページでご確認ください。

※【人】：人事院、【環】環境省の略です。

｜ 国家公務員一般職試験

・試験区分

環境省一般職自然系は、国家公務員一般職試験(大卒程度)で、「林学」、「農学」、「建築」、「土木」、「農業農村工学」のいずれかの試験区分から採用されます。試験内容、配点、出題分野等の詳細や最新情報については国家公務員試験採用情報 NAVI の受験案内をご参照ください。

(国家公務員採用情報 NAVI <https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>)

・過去問の取り寄せ

各試験区分の過去問は、人事院開示請求電子申請システムから入手することができます。

(人事院開示請求電子申請システム窓口 <https://www.jinji.go.jp/jyohokoukai/annai.html>)
請求する行政文書の名称等の「国家公務員採用試験の過去の問題」にて必要な問題を申請しましょう。

例) 試験名:[一般職(大卒程度)]、試験の区分・請求年度:[林学 試験問題集 令和〇～△年度]

※試験問題の保存期間は5年間のため、最大5年分の問題を入手できます。

※開示方法は「人事院地方事務所等での開示(閲覧、写し)」or「送付(写し、CD データ(PDF 形式))」から選択できます(CD データがおすすめ)。

※過去問の取り寄せには以下のように時間がかかるので注意して下さい。

申請書送付→(約1ヶ月後)開示決定通知、同封の申出書を送付→(1～2週間後)過去問到着

※なお、2023年度より、当該年度に実施した国家公務員採用試験について、試験問題集(多肢選択式及び記述式)がHPに掲載されることになりました。人事院の以下のHPに掲載されています。
(https://www.jinji.go.jp/saiyo/siken/mondairei/mondairei_15.html)

・試験内容

第1次試験では、多肢選択式の基礎能力試験、多肢選択式と記述式の専門試験があり、第2次試験では、人物試験があります。試験に最終合格すると採用候補者名簿に記載されます。

※2024年度より、大卒程度試験の基礎能力試験の出題数が40題から30題に削減されました。

また、高卒程度試験を含む全ての試験の基礎能力試験において、情報に関する問題が出題されています。詳細については以下のリンクをご確認ください。

(<https://www.jinji.go.jp/content/900035915.pdf>)

｜ 官庁訪問

・ 官庁訪問とは？

国家公務員として採用されるには2つのステップを突破する必要があります。1つは前述の人事院が実施する国家公務員試験ですが、試験の最終合格のみでは「採用候補者」であり、道半ばです。採用に向けて突破すべきもう1つのステップが、官庁訪問と呼ばれる各府省庁等が個別に実施する面接です。ここでは、環境省が行う官庁訪問について説明します。

・ 令和6年度自然系官庁訪問について

官庁訪問の予約

年度により実施時期や予約方法が異なる場合があるため、最新の情報を必ず確認してください。令和6年度の場合、6月上旬に環境省HP(採用・キャリア形成支援情報 自然系(総合職・一般職))上で予約方法が公開され、人事院の第1次試験の合格発表と同時に官庁訪問の予約が解禁されました。今年度はスケジュールが7月上旬と下旬の2つの期間で実施されており、それぞれで受付期間は異なりました。電子メールによる事前予約制で、面接実施日5日間のうちの第1・第2希望日のほか必要な情報を指定のファイルに入力し、メールに添付して送信し、申し込みました。

面接の形式

年度により形式が異なり、その詳細は受けてみないと分かりません。令和6年度の場合は、いずれの日程も環境省本省での対面面接で、1日に複数回の面接が行われました。なお、訪問者カード(環境省採用HPから様式をダウンロード、3×4cm写真貼付)は、官庁訪問予約時にメールに添付して送信しました。本省入館の際は「写真付きの身分証明書(学生証等)」が必要です。

｜ 参考サイト

試験や官庁訪問に関する最新の情報は人事院や環境省のHPでご確認ください。

○人事院HP 国家公務員試験採用情報 NAVI <https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>

○環境省HP 採用・キャリア形成支援情報 自然系(総合職・一般職)

https://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_3all/index.html

内定者の概要

	A	B	C	D
試験区分	林学	林学	林学	土木
性別	男	女	女	男
年齢	25 歳	21 歳	25 歳	22 歳
最終学歴	大学院(修士)修了見込み	大学卒業見込み	大学院(修士)修了見込み	大学卒業見込み
専攻	野生動物管理学	森林水文学	園芸学	土木工学
研究テーマ	キタサンショウウオの 食性と採餌行動	渓流水の季節ごとの 濃度変化	タデ科イタドリ属の 系統地理学的研究	深層学習を用いた コンクリートのひび割れ検出
併願先	林野庁、北海道庁(林業系)、 北海道開発局	総合緑化企業	国家総合職、地方上級	国土地理院、地方上級
趣味	ランニング、よさこい	散歩、映画鑑賞	旅行	自転車旅行、登山
好きな動植物	両生類、は虫類全般、 エトピリカ	猫	馬	シマエナガ

	E	F	G	H
試験区分	林学	林学	建築	農業農村工学
性別	女	男	男	男
年齢	27 歳	26 歳	23 歳	22 歳
最終学歴	高校卒業	大学卒業	大学院(修士)修了見込み	大学卒業見込み
専攻	普通科	野生動物学	建築構造学	農業環境工学
研究テーマ	なし	インタープリテーション	熊本地震で被害を免れた 伝統木造住宅の 耐震性能評価	環境条件を考慮した 草刈機の作業効率の評価
併願先	なし	なし	国家総合職、地方上級	なし(大学院進学)
趣味	野鳥撮影、芝居	釣り、ツーリング、写真撮影、 旅行	野球観戦、スキー	サッカー、フットサル、 サイクリング、ランニング
好きな動植物	動物全般	オガサワラヨシノボリ	猫	ハビ(無毒)

	I	J	K	L
試 験 区 分	林学	林学	林学	林学
性 別	男	女	男	男
年 齢	23 歳	25 歳	24 歳	23 歳
最 終 学 歴	大学院(修士)修了見込み	大学院(修士)修了見込み	大学院(修士)修了見込み	大学卒業
専 攻	送粉生態学	森林生態学	農学	暖地農学
研 究 テーマ	自然界に生息する植物種における、紫外線反射も含む 花色・花模様の調査	木本性つる植物の光合成 生産物の転流について	昆虫(ハムシ)の分類	食品生産プロセス学
併 願 先	民間企業、国家総合職、 地方上級	林野庁、石川県庁	総合建設コンサルタント	林野庁
趣 味	散歩、写真	狩猟、山菜取り、絵、飲み	ロードバイク、昆虫採集、 スキー	自然写真撮影、漫画・アニメ
好きな動植物	アマゴイルリトンボ	紫陽花、猫、猪	トガリネズミ、イワブクロ	動物全般 特にサンショウウオ

	N	M	O
試 験 区 分	土木	林学	林学
性 別	男	男	女
年 齢	20 歳	28 歳	25 歳
最 終 学 歴	高専本科卒業見込み	大学院(博士)修了見込み	大学卒業
専 攻	地盤工学	生物科学	動物繁殖学
研 究 テーマ	ロードキル発生要因の分析 による道路構造の検討	小笠原諸島における 乾性低木林樹木種の 乾燥ストレス耐性と 機能的多様性について	分娩・育児に関わる グルコースセラミド転移酵素 の機能解明
併 願 先	独立行政法人、ゼネコン	林野庁	なし
趣 味	旅行	釣り、登山、自転車、植物栽培	登山、旅行
好きな動植物	哺乳類全般 特にニホンザル	多肉植物、着生植物、イモリ	犬

内定者からの情報

内定者 A

(1) プロフィール

- 最終学歴 院卒見込み
- 学年 修士 2 年
- 併願先 国家一般職（林野庁、北海道開発局） 地方上級（林業職）
- 参加した説明会・回数
自然系採用説明会（Web）4 回
霞が関 open ゼミ（対面）1 回
- 試験区分 林学
- 志望動機

幼少期に北海道の身近に湿原や森林がある環境で過ごし日本の自然の美しさに感動した経験や、大学で行った研究を通して日本に生息する多くの希少種の保全とそれに対する地域の方々の理解の必要性を感じました。また北海道での生活の中でロードキルや人間への被害を目の当たりにし、野生動物との軋轢を解消する必要性も感じました。そのため国立公園という現場を通して自然の保全や利用に関わることでできる環境省の自然保護官に興味を持ち志望しました。

(2) 内定者体験記

●勉強方法

○基礎能力試験

試験を受ける年の 1 月から勉強を始めました。参考書は畑中敦子のザ・ベストシリーズを使って、判断推理、数的推理、資料解釈を繰り返し勉強しました。この分野は解き方がある程度決まっていってやるだけ点数が伸びるので力を入れました。他の科目は当たればラッキーぐらいの気持ちでした。

過去問は人事院に 6 年分を請求して取り寄せました。実際の試験では時間が少ない印象だったので過去問を解く際は時間を測って練習していました。1 月から 3 月は月に 1 回、4 月以降は 2、3 回、直前はほぼ毎日過去問に触れていました。（のちに記述する専門試験も同じタイミングで解いていました。）

○専門試験（多岐選択試験、記述試験）

大学ではあまり林学を学んでいなかったのではぼーから独学で始めました。まずは 1 年分過去問を解き、選択肢の該当分野を「森林・林業白書」や「森林・林業実務必携」を用いて調べ、どこが合っているのか、正しい情報は何かを問題に直接書き込んでいました。最初はとても時間がかかりましたが 6 年分を終えるころにはある程

度の出題傾向が理解できていたと思います。慣れてきたら再び何も見ないで過去問を解き、間違えた箇所は白書や実務必携で正しい情報を確認することを繰り返していました。

記述試験は選択試験ほど対策をしていませんでしたが、林学の用語や白書で見た気になる話題について自分の意見を制限文字数以内にまとめることをしていました。私はまとめてから誰にも見せていなかったのも、知り合いに添削を頼むとよいかなと思います。

教養試験とは異なり、時間にはかなり余裕があったのでそこは心配しなくてもいいと思います。

●内定までの過ごし方、心掛けたこと

就活をしつつ研究でフィールドに出たり実験を行ったりしていました。私は体を動かすことが好きなので所属していたよさこいサークルや趣味のマラソンで息抜きをしていました。同じ公務員志望の人と話して情報を交換したり悩みを言い合ったりしたことでモチベーションを保つことにつながったと感じています。

●官庁訪問

大学やハローワークを活用して訪問者カードを作成し、それをもとに面接練習を行いました。面接には苦手意識があったのに民間を受けず、最初の面接本番が環境省の官庁訪問だったので、訪問前の1か月ほどはたくさん練習していました。練習以外にも、新聞で関連分野のニュースを見て自分の意見を考えたり、環境省が配信している動画をみたりして情報を集めました。官庁訪問は暑い時期で人によっては長距離移動が伴うので体調管理や対策も必須です。

●アドバイス、メッセージ

私は実は今年の3月までは環境省は受けなつもりでいました。自分のやりたいことと一致はしていましたが、倍率や難易度を考えると自分には不釣り合いだと考えていたからです。それでも第一志望にしたのは、ずっと自分の中でこのまま挑戦もしないで諦めていいのかというもやもやがあったからです。内定者の声を見ている人の中には自分なんかが・・・と思っている人もいるかもしれませんが、少しでも気になるならまずは受けてみて、自分の自然に対する気持ちを環境省の方に伝えてほしいです。

公務員試験は長丁場、いかに環境省で働きたい気持ちを保てるかがカギになると思います。途中で自分はなんで就活をやっているのか？もうどこでもいいのでは？と思ってしまうことがあるかもしれません。日本の自然を守りたいという純粋な気持ちを忘れずに乗り越えていってください！

内定者 B

(1) 内定者プロフィール

- 最終学歴 大卒見込み
- 学年 学部 4 年
- 併願先 民間企業
- 参加した説明会・回数
 自然系業務説明会（WEB）2 回
- 試験区分 林学
- 志望動機

自然と人を繋げられるような自然保護官になりたいと思い志望しました。幼い頃から、虫取りや川遊びなどをして自然に囲まれて過ごしてきました。中学生の頃に地球環境に関する本を読んだ事がきっかけで、環境問題に対して強く関心を持つようになりました。大学では森林資源について学び、今ある美しい日本の自然景観や生態系を後世にも残していけたらと考えるようになりました。

(2) 内定者体験記

●勉強方法

大学 3 年の 11 月ごろから勉強を始めました。

○基礎能力試験

数的処理と判断推理の対策しか行わず、問題集も 3 周ほどしかしなかったと思います。時事問題に関しては、テレビのニュースだけではなく新聞も読んでいましたが、週 1 回コンビニで買うぐらいで“活字を読む”だけになっていたので、毎日のニュースをテレビで見たり、ネットで検索してみたりするだけで十分だと思っています。

○専門試験

過去問を中心に問題を解き進め、「森林・林業白書」と「森林・林業実務必携」を参考に問題文に出てきた条約の内容やわからない語句をノートにまとめました。特に、「森林・林業白書」の内容を繰り返し読むことが大切です。

●内定までの過ごし方・心がけたこと

勉強があまり得意ではないので、あまり気負わず“ついでに”感覚で勉強していました。大学の授業の空き時間の暇つぶしに、ショッピングして疲れたからカフェに寄ったそのついでになど、どこにいても勉強はできるように白書や参考書を常に持ち歩いてはいました。また、近くの公園に散歩へ行ったり、たまに国立公園に遊びに行ったりすることでモチベーションを保っていました。

●官庁訪問

面接練習などは特にしませんでした。なぜ自然保護官になりたいのか、きっかけや自分の思いなど何度もノートに書き出していました。当日は目線や表情だけでなく、声色も明るくなるように意識して挑みました。

●アドバイス・メッセージ

何があっても最後までやり抜くこと、自然が大好きだという気持ちが大切だと思います。たくさん悩んで考えて、疑心暗鬼になったり、辛くなったりすることもあるかと思いますが、でも“とりあえず”やってみてください。考えるより行動した方が案外いい結果だったりします。「人生はネタ探し」という言葉が私は好きです。生きていればすべてネタになるのであまり気迫わず、「頑張っている自分がかっこいい！すごい！」と鼓舞ながらポジティブに過ごしてみてください。挑戦する皆さん、心から応援しています。

内定者 C

(1) 内定者からの情報

- 最終学歴 大学院修了見込み
- 学年 修士課程 2 年
- 併願先 国家公務員総合職、地方上級
- 参加した説明会・回数
霞が関 OPEN ゼミ・説明会・OB 訪問・インターンシップ（本省）
10 回
- 試験区分 林学
- 志望動機

自然保護官として、野生生物の保全に携わりたいと考えたからです。大学時代に参加した環境保全ボランティア活動や環境省インターンシップを通して、野生生物を保全するためには、地域の特性に合わせた具体的な対策の実行、全体をまとめサポートする指針の作成、地域から国際社会に向けた主体間の連携、以上の 3 つが重要だと学びました。自然保護官は、その全てにおいて縁の下力持ちとなり支えていく存在であると理解し、志望しました。

(2) 内定者体験記

●勉強方法

○基礎能力試験

2024 年度から基礎能力試験の問題が 40 題から 30 題に減ったことによって、問題が難しくなったと感じました。体感としては、国家総合職院卒と今までの国家一般職の基礎能力試験の中間くらいの難しさでした。なので、基礎能力試験対策として、国家総合職院卒の基礎能力試験の過去問を解くのが良いと感じました（問題数も同じで、難易度が難しいので、解けるようになったら一般職の問題は解けると思います）。

○専門試験

国家総合職試験が終わってから林学の勉強を始めたため、苦戦しました。森林・自然環境と林学は、出題内容が被っている部分もあるのですが、林学の方がより専門的で、新しく覚えることがたくさんありました。なので、森林・林業白書と森林・林業実務必携を両手に過去問を 5 年分解いて、絶対に点を取るところを決めて、そこだけを勉強する形にしました（覚える害虫の名前が多すぎて挫折しかけました…）。

○人事院面接について

大学の公務員講座を利用して面接対策をしました。あがり症なので、面接が苦手でした。なので、15回以上は練習したと思います。何回も面接練習を繰り返すことで、内容を頭に叩き込み、本番で頭が真っ白になっても口が勝手に動けるくらいにしました。また、想定外の質問が来るとパニックになってしまうので、質問想定集を作成し、どのような質問が来ても答えられるようにしました。面接カードは大学のキャリア支援を利用して、添削してもらいました。

●官庁訪問

一番の難所でした。私は総合職と一般職の両方で官庁訪問に参加しました。その中で重要だと感じたのは、当たり前なことだとは思いますが、なぜ一般職なのかなぜ総合職なのかを明確化させることだと思います。レンジャーは、他職種や他省庁と違って、一般職であっても総合職と同じ仕事をすることができます（逆も然り）。なぜ総合職でなければいけないのか、なぜ一般職でなければいけないのかを自己分析して深掘りし、実体験とともにそれを伝えることが重要だと感じました。

●内定までの過ごし方、心掛けたこと

私は、様々な体験をすることを心掛けました。具体的には、ボランティア活動や留学、フィールドワーク、インターンなどが挙げられます。これらの活動に参加したことで、自分の経験値を上げることができ、自信を持つことができました。さらに、自分はなぜレンジャーになりたいのかを見つめ直すきっかけにもなり、面接の際に、具体例とともに、自分の意見を述べることもできました。

●アドバイス、メッセージ

皆さんには、学生のうちに様々な体験をして欲しいと思っています。勉強することももちろん大切ですが、面接では、自分がどのような経験をし、そこからどのような知見を得て、それを今後どう活かしていきたいからレンジャーになりたいということを伝えることが重要になってきます。学業や受験勉強で忙しいとは思いますが、経験は自分の武器になります。様々なことに果敢に挑んでみてください！皆さんの健闘を祈っています！

内定者 D

(1) 内定者プロフィール

- 最終学歴 大学卒業見込み
- 学年 学部 4 年
- 併願先 国家一般職（国土地理院）、地方上級
- 参加した説明会・回数
自然系 web 説明会、官庁合同業務説明会（計 3 回）
- 試験区分 土木
- 志望動機

学生生活では、自転車旅行や登山を通じて国立公園など様々な場所を訪れ、自然が私の価値観や人間関係を形成してきました。その経験から、次はレンジャーとして自然を楽しむ基盤を整備し、他者の未来へ繋げたいと考えるようになりました。自然環境の保護と利用を循環させ、自然と共生する社会の実現を目指すという考えに共感し、人々の生活の向上や地域経済の活性化に繋がる点に魅力を感じました。気候変動をはじめとする環境問題の解決には個々の努力が不可欠であり、多くの人が自然と触れ合い、環境について考える「きっかけ」を提供することで、解決へ近づくと考え、志望しました。

(2) 内定者体験記

●勉強方法

基本的に、参考書でインプット⇨過去問でアウトプットという流れで対策しました。

○基礎能力試験

知能分野について、数的処理は「畑中敦子のザ・ベスト NEO」を使用し、解法を習得しました。文章理解は過去問で傾向を確認する程度で十分だと思います。

知識分野について、今年度から自然・人文・社会に関する時事や情報となり、時事問題が重視される形式に変更されました。そのため、「公務員試験の教科書 時事本」で対策しました。

○専門試験

多肢選択試験について、工学に関する基礎と土木で「技術系新スーパー過去問ゼミ」を使用し、解法を習得しました。工学に関する基礎と土木の 3 カ+測量が重要です。土木の暗記分野はコストパフォーマンスが悪いため、解ければラッキーくらいの気持ちで大丈夫だと思います。この 2 冊は公式や解法がよくまとまっており、数回解けば十分試験に対応できると思います。

記述試験については、特別な対策はしていませんが、過去問と国土交通白書に目を通しておくの良いと思います。問われたことに正確に記述できていれば、分量や内容

の細かい部分はそれほど重要視されない印象です。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

学部３年生の２月頃から試験対策を始め、残り時間から逆算してやるべきことを整理しました。筆記試験の難易度は低いので、趣味やアルバイトなどで適度にリフレッシュすることも大切だと思います。

●官庁訪問

基本的には訪問者カードに沿った質問が中心で、堅苦しい面接というよりは職員の方との対話のような形式でした。そのため、自分の気持ちを伝えやすい環境だったと思います。訪問者カードや面接対策については、キャリアセンターや家族、友人からアドバイスをもらうことをおすすめします。また、環境省のパンフレットやホームページを隅々まで確認して理解を深め、自分の経験とやりたいことを結びつけると良いと思います。

●アドバイス、メッセージ

公務員試験は長期戦であり、精神的にも肉体的にも辛い時期があると思います。私自身も周りと比較してしまい、民間企業を選んだほうがいいのか、大学院に進学した方がいいのではないかといった不安や迷いを感じることもありましたが、しかし今では、環境省でレンジャーとして働く未来を思い描き、期待と希望に胸が膨らんでいます。この道を選んだからこそ出会える挑戦や成長があると信じています。特に重要なのは官庁訪問です。なぜ環境省で働きたいのか、環境省で何をしたいのか、自分の想いを伝えることが大切です。エピソード「を」語るのではなく、エピソード「で」語り、具体的な経験を通じて、自分の考えや価値観をわかりやすく表現することで、より説得力のあるメッセージになると思います。

最後まで諦めずに努力を続ければ、きっと自分の目指す未来に近づけるはずです。自分を信じて頑張ってください、応援しています！

内定者 E

(1) 内定者プロフィール

●最終学歴（職歴）

●学歴 高卒

●職歴 農林水産省 農林水産事務官（2015. 4～2024. 3）
環境省関東地方環境事務所富士箱根伊豆国立公園管理事務所
自然保護官補佐（2024. 4～）

●学年 既卒

●併願先 無し

●参加した説明会・回数

自然系 WEB 説明会～初めての方向け～ 1 回

●試験区分 林学

●志望動機

自然や動物が好きな気持ちと、他省庁での事務官時代の経験を活かしたいと考えて志望しました。具体的には野生生物の保全業務に携わりたいと考えています。地域の人の声をよく聞き、また普及啓発に努めながら人と野生生物の暮らしにおける課題と向き合い、より良い環境を目指して尽力したいと思います。

(2) 内定者体験記

●勉強方法

○基礎能力試験

お恥ずかしながら勉強時間が足りていなかったため、得意な科目で確実に点数をとれるように繰り返し問題を解きました。

時事問題は日々新聞を読むことで知識を身につけ、そのほかの分からない問題は悩まずに先に答えを確認し、そこに至るまでの解き方を学びました。

○専門試験

アクティブ・レンジャーとして勤務しながら、帰宅後や休日に人事院試験の過去問や森林・林業白書を中心に勉強しました。

林学の問題は特に分からない単語だらけでしたが、実務必携や環境省、林野庁 HP を活用し一つ一つ調べて書き出していく中で知識を広げることが出来たように思います。

また、私は声に出して読み上げることで覚えるタイプなので、森林・林業白書を朗読し、それを録音して通勤時間に聞いたりもしていました。聞く方の効果はイマイチでしたが、朗読は個人的におすすめです。読み上げることが出来ない単語は、意味を知らない単語であることが多いため、自分の理解度チェックに役立ちます。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

私は元々事務のお仕事をしていて専門的な知識が十分ではなかったため、まずはアクティブ・レンジャーの募集に応募をしました。アクティブ・レンジャーの面接の場で自然保護官を目指していることも正直にお話しし、採用いただいても職場の皆さんに受験することをお話ししていたので、逃げずに向き合う環境を作る事が出来ましたし、自然保護官の方の業務を間近で勉強できたことも恵まれていたと思います。

また、月並みですが、受験期間のスケジュール管理と体調管理には十分に気を配っていました。

●官庁訪問

事前準備として、訪問者カードとは別に手持ちのメモを用意しました。訪問者カードに記載することは少し硬い表現になってしまいがちなので、それをさらに自分の言葉でかみ砕き、正直な言葉で箇条書きしました。

また、面接の時間は限られていますのでどの話題をどの程度お話しするか、優先順位やおおよその配分を決めておきました。

●アドバイス、メッセージ

「アクティブ・レンジャーへの転職を決めたとき」「実際に転職したとき」そして、「受験のとき」いつだって不安はつきものでしたが、最終的に不安を打ち消せるのは努力や経験に裏打ちされた自信です。私の場合は、9年間の社会人経験で教わり、学んできたことが何よりの自信であり、心強い味方になりました。

皆さんも、勉強や趣味の場、日々の生活の中で重ねたご自身の努力や経験がきっと味方になってくれるはずです。心から応援しています。

内定者 F

(1) 内定者プロフィール

- 最終学歴（職歴） 学部既卒
小笠原でアクティブ・レンジャーとして2年10ヶ月従事
- 併願先 なし
- 参加した説明会 官庁合同説明会1回
- 試験区分 林学
- 志望動機

もともと自然が好きで、登山道の整備ボランティアや自然ガイドをしていたのですが、将来にわたって自然を残していくためには、一人でも多くの人に自然を楽しみ興味を持ってもらう事が重要だと考えたため、自然環境を保全しつつ、利用にも関わることができる環境省を志望しました。

また、アクティブ・レンジャーとして働いていた頃に、レンジャーが様々な分野の人たちと協力している様子を見て、私自身も同じように様々な分野の人たちと一緒に働きたいと思った事も志望動機です。

(2) 内定者体験記

●勉強方法

○基礎能力試験

独学で勉強していたので、知能分野（文章理解、数的処理、数的推理）を主に勉強し、知識分野は気分転換に勉強する程度にとどめました。数的処理や数的推理は解き方が分かるまでモチベーションが下がりやすく、気長に勉強しました。解説がわかりやすい問題集を見つけられると、理解が早まります。文章理解は時間さえかければ正答できる問題ばかりだと感じたので、少しでも時間を短縮できるよう、タイマーで計測して意識しながら勉強をしました。

また、実際の試験の際は以下の順に解きました。

- ①数的処理・推理（すぐ答えが出るものだけ）、②文章理解、③知識分野、④数的処理・推理（残った問題）

自分の傾向（文章理解は時間さえかければほとんど正答を選べる等）を把握できていると、試験で残り時間に悩まされる事が無くなると思います。

○専門試験

過去問の選択肢をひたすら修正しました。正しい選択肢は答案に書いてありますが、どこが間違っているのかは自分で調べないと分からないので、ひたすら白書や実務必携と見比べることになります。数年分の修正が終わるころには、傾向もなんとなく把握できるので、よく出てくる情報をノートにまとめることで、頭の中が整理でき

ます。(持ち運びするのにも便利です！)

林学は模試や問題集が無いので、前年度の試験問題はあえて解かず、頻出情報を覚えた後に解くと、実際にどれくらい解けそうか目安になります。

また、過去問は個人ブログで解説しているものもあるので、それらも参考にしました。ちなみに、図書館に森林林業実務必携など収蔵されていることがあるので、専門(林学)の勉強と相性が良かったです。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

前職を退職後、短期のアルバイトをしながら公務員試験の勉強をしていました。なにかと集中力がそがれる自宅では勉強せず、近くの図書館や喫茶店などで勉強をしていました。

また、公務員講座は通うだけで満足するタイプだったので、模試だけは受けつつ、独学で勉強していました。

●官庁訪問

面接の準備や練習は、学生の頃の友人とオンライン通話をしながら練習しました。人と話をしながら学生の頃に力を入れていたこと等を考えると、自分では忘れていたけど周りから見て頑張っていたことなどを思い出させてくれるので、おすすめです。

官庁訪問当日は、実際に環境省で働いている人と話をするのでとても緊張します。緊張しすぎて声が小さくなると良い印象は与えられないと思ったため、ダメならダメでいいやと開き直り、楽しく話をするように努めました。

●アドバイス、メッセージ

特に独学で勉強している人に当てはまるかと思いますが、問題の解き方が分からないときなど、モチベーションが下がることが多々あります。そんな時に自分のモチベーションを上げられる何かがあると良いと思いました。

私はモチベーションが下がったときは早々に勉強を切り上げ、ツーリングに行っていました。勉強を一際せず遊び回っているとだんだん不安になってくるので、その後の勉強がものすごく捗りました。

人それぞれですが、自分にあったやり方が見つけられると勉強が捗ると思います。

内定者 G

(1) 内定者プロフィール

- 最終学歴 大学院修士課程修了見込み
- 学年 修士 2 年
- 併願先 国家公務員総合職（環境省・国土交通省）
国家公務員一般職（関東地方整備局）
地方上級（建築職）
- 参加した説明会・回数
自然系採用説明会（WEB）：3 回程度
自然系採用説明会施設整備編（WEB）：2 回程度
職員訪問（WEB）：1 回
- 試験区分 建築
- 志望動機

私は大学・大学院と建築を専攻して、就職活動が始めるころには環境省のレンジャーという仕事があることすら知りませんでした。

建築を専攻する学生の就職先の定番はゼネコンといわれる建設会社や建築設計事務所ですが、私はそういった業界にあまり興味が持てず、何となく公務員を目指そうと思って環境省について調べたのがレンジャーを目指すきっかけでした。高校時代に山岳部に所属していたこともあり自然に関心があったので、希少な自然環境や生物の保護に携わることができるレンジャーという仕事に興味を持ちました。その中でも国立公園の施設整備の業務は、私が大学から専攻している建築の知識も活かしながら従事できるため、「唯一無二の仕事だ！」と強く惹かれて志望しました。

(2) 内定者体験記

●勉強方法

私は勉強を始める時期が遅かったので、スケジュールは他の皆さんの体験記を参考にしてほしいのですが、建築専攻とあって他の皆さんとは異なる「建築」区分での受験だったので、試験対策の内容をまとめておきます。

国家公務員試験（一般職）は 1 次試験（筆記試験）と 2 次試験（人物試験）があり、1 次試験は基礎能力試験（多肢選択）、専門試験（多肢選択）、専門試験（記述式）がありました。

○基礎能力試験

基礎能力試験はどの試験区分でも共通で、参考書も多くあるので対策には困らないと思います。私は『国家一般職教養試験過去問 500』という問題集で対策をしまし

た。教養試験は出題の幅が広いので、すべての問題に対応しようとはせず、得意分野・苦手分野の取捨選択をしていました。

○専門試験

専門試験は多肢選択と記述式の2つがありどちらも試験区分ごとに専門知識が問われます。建築区分の試験対策本はほとんどないので、人事院の情報公開制度を使って過去問を取り寄せました。受験者が少ない区分では参考書が少ないことがあるので利用をお勧めします。

(1) 多肢選択

建築区分の専門試験は工学に関する基礎（数学・物理）と建築の専門知識から出題されます。工学に関する基礎は『公務員試験技術系 新スーパー過去問ゼミ 工学に関する基礎』を使って対策しました。高校の数学物理の内容なので苦手分野の対策を主にしました。

一方建築の専門知識が問われる問題は参考書がほとんどありませんでした。唯一見つけられたのは『建築職公務員試験 ～専門問題と解答～』のみで、これを使って試験対策をしました。試験直前期は人事院から取り寄せた過去問で実践練習しました。過去問には解答がありますが解説はないので、上記問題集である程度知識を深めてから使うのがいいと思います。

(2) 記述式

建築区分の記述式試験は製図試験でした。これは参考書が全くなかったので、実践練習は人事院から請求した過去問で行いましたが、解答がないのでこれでいいのかという不安はありました。ただ、他の受験者も同じ環境ですし、試験として求められているレベルはあまり高くありません。試験問題に記載されている諸条件を満たすようにすれば問題ないと思います。必要に応じて建築士の資格試験用の参考書を利用するのも良いと思います。

●官庁訪問

官庁訪問は初日に行きました。面接は3回あり、1回目と2回目は職員の方と1対1で面接しました。雰囲気は柔らかく、面談のような感じでした。3回目は2名の方と面接でした。1、2回目と場所は違いましたが、こちらも堅い面接ではありませんでした。面接の前は控室に案内されますが、そこでは話すことを書いたメモなどを見て準備していました。

面接は自然体で臨むのがとても大切だと思います。緊張するとは思いますが、練習を重ねれば自信をもって堂々とふるまえると思います。

●内定までの過ごし方、心掛けたこと

業務や組織について深く理解し、後悔のないようにできるだけ疑問を解消することを心掛けました。説明会や座談会では積極的に質問をしていましたし、オンラインでの職員訪問を申し込んで施設整備に携わっている職員の方とお話する機会をもらいました。また、他の省庁や環境省の他の分野の説明会にも参加し、比較した上で志望度を高めていきました。

●アドバイス・メッセージ

内定を得るまではとても大変だと思います。私の場合も周りは民間企業からどんどん内定をもらっていく中で試験勉強をしなければいけませんでしたし、試験対策にも苦労しました。

途中で悩んだり挫けそうになったりすることもあるかもしれませんが、最後はレンジャーになりたいという気持ちが大切だと思います。皆さんを応援しています。

内定者 H

(1) 内定者プロフィール

- 最終学歴 大学卒業見込み
- 学年 学部 4 年
- 併願先 なし
- 参加した説明会・回数
自然系 WEB 説明会 4 回、自然系 WEB クロストーク 3 回
- 試験区分 農業農村工学
- 志望動機

漠然と自然に関する仕事に就きたいという思いがありました。学部 3 年次に環境省自然系の仕事を知り、インターンシップや WEB 説明会を通して、業務内容や活動目的について理解を深めました。そこで、美しく豊かな国立公園の保護と利用の取り組みに、私の専門である農業土木の知識も生かしながら貢献したいと思い志望しました。また、地域ごとに歴史的な背景や生息している動植物が異なるため、広域的に活動しながら自然に対する自身の知見を深めていける点にも魅力を感じました。

(2) 内定者体験記

●勉強方法

学内の公務員講座を受講していたため、基礎能力・専門試験ともに過去問を 10 年分ほど入手できました。満点が必要な試験ではないため、過去問を見てある程度範囲を絞って学習することを意識しました。

○基礎能力試験

前年度までの試験実施状況（人事院の HP で閲覧可能）から、5～6 割を一旦の目標としました。そのため、得意かつ全体の半分を占める判断・数的推理（資料解釈を含む）を仕上げるのが大切だと考えました。年末年始に苦手な分野を講座のテキストで演習したことで、目標点を取れるイメージがつかしました。試験の 1 カ月前頃から過去問を解き、併せて文章理解の対策としました。教養は時間との勝負だと感じていたので、過去問を解く際に時間をしっかり計り、自分にあった時間配分を確立することを心がけました。

○専門試験

こちらも前年度までの状況から、5～6 割を目標に設定しました。2 月頃に勉強を始め、まずは過去問を解いて出題内容や自身の得意不得意を把握しました。出題範囲が広いと感じたため、ある程度絞って学習しました。その際には、「農業農村工学必携」という参考書で基本をさらい、大学の教科書や農林水産省の HP で補足するという

ような流れにしていました。記述については、過去問で取り上げられた内容を中心に「食料・農業・農村白書」を確認することで対策としました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

学部3年の間は、これまで通りフットサルやアルバイトをしながら過ごしていました。それぞれ目標があったため、最後までやり切りたい思いが強かったです。4年になってからは、研究と就職活動に絞って取り組みました。この期間心がけたことは、入省してから何がしたいのか、具体的にすることです。そのために、説明会等で情報収集をしたり、近場の国立公園を訪れたりしていました。

●官庁訪問

公務員講座で学部3年の冬から月1回のペースで、2次試験用の面接練習があったため、面接での受け答えや基本動作などはそちらで経験を積みました。訪問者カードは最大限アピールするというよりも、等身大を伝えることを意識して作成しました。実際の面接は和やかな雰囲気、必要以上に緊張することなく臨むことができました。面接官の方は訪問者の話をしっかりと最後まで聞いてくださるので、落ち着いて話すことが大切だと思います。

●アドバイス、メッセージ

内定者の声を読まれている皆様の中には、自然系職員を第一志望にしている方、まだ迷っている方、今日知った方、様々おられると思います。共通して、就職活動では職業選択の軸を持つことが大切です。地元で働きたい、定時で絶対に帰りたい、自然保護に関わりたいなど何でも良いです。そしていくつか浮かんだ方は、それぞれを具体的にしていき、優先順位をつけていってください。自分の中でしっかりとした軸ができるはずです。これができる、と志望先もおのずと決まり、試験勉強や面接練習に集中できます。インターンシップや説明会は、自分の軸と実務を比較できる良い機会なので、積極的に参加することをお勧めします。

最後までお読みいただき、ありがとうございます。皆様の就職活動が、良い結果となることを心からお祈り申し上げます。

内定者Ⅰ

(1) 内定者プロフィール

- 最終学歴 大学院修了見込み
- 学年 修士課程2年
- 併願先 民間企業、国家総合職、地方上級
- 参加した説明会・回数
Web 説明会・座談会・霞が関 OPEN ゼミ 計10回ほど
- 試験区分 林学
- 志望動機

幼少期より身近な自然や国立公園で遊び、そこに住む生き物や景色が大好きで、美しい自然環境を守れるような仕事ができたらいいなという思いが漠然とありました。そんななかで、学部生のときに参加した外来種除去のボランティアなどから自然環境を持続的に利用し守っていくためには様々な人の協力が不可欠であることを実感していきました。そうした自然環境を取り巻く人々と自然を最前線でつなぐ仕事として、環境省のレンジャーを知り、志望させていただきました。

(2) 内定者体験記

●勉強方法

○基礎能力試験

大学の公務員講座を利用しました。勉強を始めるのが修士1年の2月ごろからになってしまったので、講座内で配信されている数的処理の授業動画を見て、動画内で扱われている問題に触れる程度と、過去問を解いて時間感覚をつかむくらいしかできませんでした。本番は苦手なところは思い切って後回しにして、文章理解や数的の得意分野など、確実に得点できるところに集中するようにしました。

○専門試験

林学は大学では習わなかったため、ほとんどゼロからの勉強になりました。

多肢選択試験はまず、1年分過去問を解いたうえで、森林・林業白書と実務必携、林野庁のHPなどを使って各選択肢に解説を付けて丁寧にまとめました。その後、解説付きの年度を含む5年分の過去問を番号順に横並びにして、どのような分野が入っているのか自分なりにラベルを付け、どのような順番で問題が進んでいくのか、流れを頭の中でイメージできるようにしました。そして解説を付けた年度を軸に、他の年度の同じラベルの問題と見比べながら、分野ごとに押さえておくべき情報をまとめていきました。そのうえで改めて、5年分の過去問の各選択肢で正しい根拠、正しくない根拠を頭の中で答えながら解く練習をしました。論述試験は過去問を眺め、出そうな所にあたりを付けて白書を読む程度でした。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

暇な時間があれば、なぜレンジャーになりたいのかというのを具体的な言葉で考えてスマホのアプリでメモしたり、ノートに書きだしたりしました。また、説明会には積極的に参加するようにしました。

志望動機の整理、レンジャーの仕事を理解すること、自分はレンジャーにどのような適性があるのか分析することの3つを念頭に置いて動くようにしました。

●官庁訪問

新卒応援ハローワークで2回ほど面接練習をしました。声のボリュームが尻すぼみになりがちだったので、はきはきと話すことを意識しました。本番は想定よりも和やかで、かなり緊張はしましたが話しやすかったです。ノートに自分の訪問者カードをはり、客観的に気になるポイントやそれに対する補足説明をまとめたほか、これまで参加した説明会の情報や自己PR・志望動機につながるエピソード、レンジャーの仕事について気になっていることなども改めてまとめて、それを思い出しながら話すことで、会話を膨らませられるようにしました。

●アドバイス

正解はないかもしれませんが、私が就活を通して感じたことをお伝えします。参考程度にお読みください。

まず筆記試験についてです。筆記の試験対策は高得点を狙う必要はありませんので、ある程度で区切りをつけてしまって良いと思います。それよりもレンジャーとして働きたいという気持ちを整理し、行動し、納得していくことに時間を割くことが大切だと思いました。具体的には、どうしてレンジャーとして働きたいのか、ノートでも何でもいいので書き出します。そして、その志望動機とレンジャーの仕事があっているのか理解を深めるため、説明会に参加して職員の方と話したり、改めて国立公園に足を運んだりして、どう感じたかをまとめます。(他の官公庁や一般企業にも足を運び、視野を広げることも大切だと感じました。) そのうえで、レンジャーで間違いないと思えたなら、突き進むだけだと思います。

あとは明るくいきましょう！どこの職場でも同じかもしれませんが、一緒に働く人が明るい嬉しいですし、色々な人と関わるレンジャーとして大切な事なのではないかなと思います。

拙い文章ですが、ここまで読んでくださりありがとうございました。皆さんが納得のいく道に進めるよう願っております。

内定者 J

(1) 内定者プロフィール

- 最終学歴 大学院卒業見込み
- 学年 2 年
- 併願先 林野庁、県庁、民間 2 社
- 参加した説明会回数
1 回
- 試験区分 林学
- 志望動機

小学生の時の父親の仕事の関係でケニアの国立公園をみて感動した経験と、幼少期から自然の中で遊ぶ機会が多かった事で自然環境の保全に興味を持つようになりました。そのため将来は自然環境に携わる自然保護官の仕事がしたいと思うようになりました。

(2) 内定者体験記

●勉強方法

国家の総合職と一般職を受けたので、それぞれの過去問を用いた勉強をしました。本格的に勉強を始めたのは総合職一次試験が行われる 3 月の一か月前の 2 月頃です。

具体的な勉強内容

○基礎能力試験（多肢選択式）

大学 3 年時に民間の対策として SPI の勉強をかじっていたこともあり、過去問での知識問題以外は割と解けていたので、2 月頃から県庁の一次試験までの間は特に知識問題を解いていました。はじめは、網羅的に知識を詰めようと知識問題全般が乗っている参考書一冊を丸暗記しようとしてしました。純粋に知識が増えること自体は楽しいのですが、終わるところには国家総合職試験の 3 日ほど前になっていたのでお勧めしません。時間配分が大切な試験になるので週に一回程度、国家総合では 2 年分×2 周、一般では 3 年分×2 周ほど時間を測り、解法をノートにまとめていました。解法をまとめたノートでは関連する問題を解法別に整理したことが後々試験前に見直す際の確認のしやすさにつながりました。

自分の経験を踏まえて、基礎能力試験対策の知識問題については範囲を絞ることをお勧めします。

○一次専門科目（多肢選択式）

過去問や森林林業実務必携、森林林業白書以外の参考書は特に用いず、わからない

問題があればその時点で、ネットで調べるようにしていました。

修士1年の入学時から約半年かけて森林林業実務必携の全てに軽く目を通していきましました。専門の多肢については時間に余裕があるタイプの試験だったので国家総合職では過去問を2年分×2周、一般職では3年×2周ほど時間を測らないで解きました。また1周目は年度で分けないで似たような問題で分けて解き、調べたものをノートにまとめるようにしていました。

森林林業基本計画の構成の変遷や、最新の閣議決定で決まった国の基本計画に基づく施策、方針、現状に基づいた制度、法律の体系的な理解をすることで圧倒的に過去問が解きやすくなりました。また、本番でも選択、記述両方で関連する問題が出て解くことができました。私は国家の総合職一次試験が終わってからノートにまとめ始めたのですが、もっと早くしておけばよかったと思います。

○専門記述

過去問を解くなどの対策は特にしていません。前述したとおり森林林業基本計画で問題視されている現状と、それについての国の対策を把握しました。

●内定までの過ごし方

大学進学時にはレンジャーになりたいなと漠然と思っていましたが、レンジャーだけでなく民間の仕事についても深い知識がないままでした。知見を広げようと大学3年時から民間のインターンや就職活動をしました。また、平行してユネスコが行っているユネスコエコパークを巡るプログラムに参加するなどして、大学3年生の時に進路の選定を進めました。

また、趣味や自分のしたいことも挑戦しました。結果として官庁訪問では趣味の話題（狩猟では狩猟関係者の方たちが問題視している点、旅行では面白体験記）をお話しすることができ、自分にしか出せない強みに繋がりました。

●官庁訪問

大学で行われている面接対策を受け、受け答えや入退室の際のマナーなどを一度学びました。狩猟仲間や銃砲店の店主さんなど仲よくさせていただいている方からは、過去に伺っていた行政への不満や、組織間での考え方の違いを聞いていたので、それを思い返すとともに、今一度鳥獣被害対策の現状や狩猟者の現状、不満に思っていることを聞きました。また、先輩レンジャーや林野庁に入った大学の同期などに話を聞きました。

官庁訪問は後半（当時は7月下旬の実施）を選択しました。当日は素のままの自分で落ちたら縁がなかったと思うと開き直ることができ、不思議とほとんど緊張しませんでした。面接官をひと笑いさせることを影の目標に頑張りました。マネしなくて

いいと思います。

地方勤務・転勤に耐性があるか、何事も楽しめそうか、面接官の質問にきちんと返答できるかが選考に重要なように感じました。

●アドバイス、メッセージ

私が学生時代にしていたよかったなと思うことを話そうと思います。

1つ目は、勉強だけでなく自分のしたいこと、楽しみ、また周りにいらっしゃる様々な立場の人との関わりを大切にしたことです。前述の通り、就職活動に関係ない、興味を持って自ら動いた活動が私の就活には役立ったように思います。

2つ目に、自己分析を早めにしたことです。面接対策というよりは自分の性格とうまく向き合うために割と役立ったと思います。偉そうに書いていますが、正直私は試験前にならないとやる気が起きないタイプで、筆記、選択の内容は短期集中ですごく詰めました。3年の時に就活したのは自分のそんな性格を自己分析でわかっているから民間企業の選定とSPIだけは先にやっておこうと思った次第です。

最後に、公務員試験は民間に比べ選考時期が遅い傾向にあるので、就職活動で周りと比較し不安になることも多いと思います。ですが逆に周りの就活が終わった友人は公務員試験の時期には余裕を持つのであなたの就活に協力的になってくれるはずです。面接対策でも何でも利用できるものは利用して、最後まであきらめず全力で頑張ってください。応援しています。

内定者 K

(1) 内定者プロフィール

- 最終学歴 大学院修了見込み
- 学年 修士 2 年
- 併願先 民間企業（総合建設コンサルタント）
- 参加した説明会
WEB 説明会、クロストーク、座談会、MOE トーク、JOB トークなど
25 回程度
- 試験区分 林学
- 志望動機

環境省の業務を通じて生物多様性の保全に携わりたいと考え、環境省を志望しました。私は幼少期より昆虫をはじめとした様々な生物に興味を持ち、大学ではハムシという昆虫の分類をテーマに研究を続けています。全国各地で採集を行う中で、特別保護区内外の昆虫相や植物相の違い、防鹿柵の有無による植生変化など、行政による保護の有用性を感じる機会が多くありました。原生的な自然がほとんど残されていない日本において、二次的な自然を維持するためには利用面も含めた様々な調整が必要だと実感し、環境省に興味を持ちました。そこで地方環境事務所のインターンに参加したところ、開発を前提とした調査・報告がメインの民間企業とは異なり、調整業務を通じて自然保護の方向性を定めることができる環境省に非常に魅力を感じました。

(2) 内定者体験記

●勉強方法

身近に環境省の OB や OG がいなかったため、過去の「内定者の声」に目を通して筆記試験と面接の戦略を練りました。よって私の勉強法のほとんどは過去の先輩方の受け売りです。

まずは全体的なスケジュールについてです。12 月から基礎能力試験の勉強を開始し、1 月から専門試験の勉強を並行して行いました。このスタイルを 4 月まで継続していましたが、ある程度の目途が立ったことと、研究で大きな進展があったことから、一度勉強を中断しました。もともと嫌々勉強していたのでなかなか再開する気になれず、1 か月半後の試験 1 週間前（5 月末）から過去問を数年分解き直して本番に臨みました。典型的な中だるみとなってしまったので、勉強スタイルによっては早く始めるのも考え物だと思います。

次に、基礎能力試験と専門試験それぞれの勉強内容です。基礎能力試験は、12 月の勉強開始時にとりあえず過去問を 2 年ほど解いてみました。十分合格点に達してはいましたが、判断推理と数的処理の問題形式に慣れるためスーパー過去問ゼミを 2 周し、傾向を掴みました。専門試験の勉強をメインに行っていたので、1 月から 4 月ま

で1日2題ずつ細々と続けていました。専門試験（林学）は、過去問の選択肢を森林・林業実務必携と森林・林業白書を用いて確認していくという王道の勉強法です。初学だったため1年目の過去問は非常に時間がかかりましたが、2年目、3年目と繰り返すうちに頻出分野に慣れて、かなりスピードアップできました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

申し込み時は林野庁も併願先の候補にあったため、専攻とは無関係の林学を選択しました。私は勉強していくうちに興味がでてくるタイプなので最初は楽観視していましたが、林学には最後まで興味が湧きませんでした。そのため開催されている説明会にはできるだけ参加し、モチベーションを維持することに努めました。説明会への参加回数が異常に多いのはそのためです。また、民間企業の面接が試験勉強よりもよほど楽しかったので、良い息抜きになっていたと思います。

●官庁訪問

大学のキャリアセンター、メンターなど、できるだけ多くの方に訪問者カードのチェックや面接練習を手伝ってもらいました。特に志望動機は、半年以上かけて練りに練りました。自分の心情がうまく言語化されている言葉が「内定者の声」や説明会の話にあればメモし、過去の経験やインターン、民間就活も踏まえて推敲を重ねていきました。加えて、面接の場慣れのため民間企業を数社受けました。似たような業界であること（志望動機を練りやすい）、面接形式が同じであること（GDがない、対面であることなど）を考慮して、負担を減らしつつ実践的な練習ができたと思います。民間就活で面接には慣れていたつもりですが、やはり官庁訪問本番は緊張しました。最初は噛み噛みでしたが、威圧感は全くなく真摯に話を聞いて下さったので、自分の考えを伝えることに全力を尽くすことができました。民間企業では過去の経験をメインに掘り下げられましたが、環境省の官庁訪問では入省後に何をしたいかを具体的に説明できるようにしておくことが重要だと感じました。

●アドバイス、メッセージ

自身の就活を振り返ってみて、インターンは参加して良かったと思っています。志望動機に具体性をもたせるといった面接上の理由だけでなく、自信を持った将来選択につながります。オンラインでの説明会にはかなり参加しましたが、インターンを通じて実際に業務を体験することでしか分からないこと、実感できないことが多かったです。

最後に、民間就活が年々早期化していく中で、8月まで気を抜けない公務員試験は長期的なストレスを伴うことと思います。私も春先に民間企業の内定が出た時は、これで就活を終えることができたなら楽だろうな…と考えることもありましたが、

民間企業や他省庁の業務内容との違いを明確化し、環境省でしかできないことを見出すことでモチベーションを保つことができました。環境省の方が企画して下さる様々なイベントに参加して、最後まで気持ちを強く持ち続けてください。うまく情報を取捨選択して、ご自身の勉強に役立てていただければ幸いです。

内定者 L

(1) 内定者プロフィール

- 最終学歴 大卒
- 職歴 民間企業(営業) 1年6ヶ月
- 併願先 国家公務員一般職(林野庁)
- 参加した説明会・回数
自然系採用説明会(WEB) 1回
- 試験区分 林学
- 志望動機

趣味のフィールド活動を通じて、シカによる希少な低層植物の食害や、特定外来生物による在来種の減少等、日本の自然環境下には様々な課題があることを実感しました。大学卒業後は一般的な社会人としてのキャリアを想定していましたが、こうした課題に積極的に取り組み、解決に貢献できる仕事として環境省のレンジャー職に強い関心を持つようになりました。特に国立公園の維持管理や保全に関わる施策の実施など、直接的に自然に触れながら、民間企業や団体では難しい規模やアプローチでの自然環境保全に貢献ができる点にも魅力を感じました。次世代に自然の恩恵の持続的利用と自然と関わる面白さを伝えていくため、レンジャーの一員として勤務したいと考えました。また、畑違いな分野からの転職にはなりますが、自然の様々な観点についての知見を深め、課題を見つけ、解決するために尽力したいと考えました。

(2) 内定者体験記

●勉強方法

○基礎能力試験

(勉強期間 4ヶ月)

基本的には過去問をベースに、わからないところを復習で勉強するといった形で勉強をしていました。知識系はある程度は見切りをつけ、英語や解答速度が求められる数的処理等などの数学系科目を重点に繰り返し勉強しました。当日試験も終了間際でギリギリ解き終わるぐらいの試験時間でした。問題を解く速度が特に得点を左右するように感じました。

○専門試験

(勉強期間 2ヶ月)

専門科目は林学を選択しました。市販の問題集が手に入らなかったため、主に森林林業実務必携を熟読し、林業知識を頭に入れました。一周読み込んだ後は過去問を解いて、出題問題に関連するページを復習として読み直す・・の繰り返しで勉強しました。林業時事に関しては最新の森林林業白書にて勉強しました。0からの学習でした。

が自然への興味関心がある方は勉強しやすいと思います。

●内定までの過ごし方、心掛けたこと

社会人であったため基本平日は仕事が終わった後、体力的に余裕がある日に勉強していました。試験の3か月前からは土日の片日は勉強、もう一日は遊びに行き、息抜きしながら試験対策を進めていました。また環境省の行っている事業内容や環境に関連するニュースによく目を通していました。

●官庁訪問

7月最初の官庁訪問は、一次試験合格通知から官庁訪問申し込みまでのスケジュールが大変タイトなので気を付けてください。

面接に関しては訪問者カードの仕上げに特に気を使いました。環境省で何がしたいか、自分の能力が環境省の仕事でどう活かせるかを書き出した上で、なぜそう言えるのか？を文章化してから志望動機や自己PRを作成しました。また細かい文章表現などは知り合いに添削してもらいながら整えました。

カード作成後は面接で志望動機や自己PRの説得力が出るよう、わかりやすい話し方や伝え方の練習をしていました。

訪問当日は自然体で話せるほうが良いかと思い、他受験者と会話したり本や動画を見たりして、リラックスした状態で挑みました。

●アドバイス、メッセージ

実のところ私は環境省を受けようと決意したのは前年の12月頃でした。他の内定者に比べ、いろいろと準備不足だったなと思います。親や公務員の友人に助けてもらいながら何とか内定をいただきました。

志望動機や仕事のイメージを固めるためにもインターンシップや説明会には率先して参加したほうがよいと思います。私は仕事の関係でほぼ参加できなかったですが、レンジャーの仕事に対する理解度を高めるにはレンジャーのお話を聞くことが一番だと思います。実際の仕事の内容、どのような人材が求められているかを知り、そのうえで評価に繋がるエピソード作りや、レンジャーになった後にやりたいことをはっきりさせましょう。

社会人でレンジャーを目指される方は、前職での経験がアピールできる武器になることもあるので、話せるエピソードがあると良いと思います。また、スケジュール管理には特にお気を付けください。特に官庁訪問は平日実施され、訪問予約してから訪問までの期間が短いため、面接準備や有休の取得に苦労しました。公務員試験を受ける方は、内定をもらうまでは有休を多めに残しておくことをお勧めいたします。

内定者 M

(1) 内定者プロフィール

- 最終学歴 高専本科修了見込み
- 学年 高専 5 年
- 併願先 独立行政法人、ゼネコン
- 参加した説明会・回数
 自然系採用説明会・座談会（WEB）6 回ほど
 霞が関 OPEN ゼミ（対面）1 回
 官庁合同業務説明会（1 次試験合格者対象） 参加
- 試験区分 土木
- 志望動機

私は幼い頃から旅行を通して、たくさんの自然に触れてきました。その経験から、将来は自然と関わる仕事に就きたいと考えていました。そんな中、新幹線の先頭部分について何らかの野生生物の血潮に衝撃を受けました。その血潮を調べていく内に、ロードキルのことを知り、野生生物とヒトの衝突をなくしたいと考えました。その中で、野生生物とヒトの共生社会を実現したいと思い、また、日本の自然の現状を多くの人に知ってもらいたいと考え、レンジャーになりたいと思うようになりました。

(2) 内定者体験記

●勉強方法

○基礎能力試験

過去問 12 年分を 2 周して、とにかく演習に取り組むようにしました。特に数的推理や判断推理や資料解釈に関しては、間違えた場所をしっかりと復習して本番では落とさないようにしていました。時事に関しては、隙間時間に「速攻の時事」を使って対策していました。また、文章理解に関しては毎朝、3 問ずつ解くようにしていました。

○専門試験

過去問 12 年分の演習にとにかく取り組みました。特に構造力学・水理学・地盤工学に関しては、最も時間を割きました。地盤工学に関しては、覚える公式が多く、自分で暗記帳を作り、隙間時間に取り組みました。「スーパー過去問ゼミ」を使っておくと、3 力を網羅できると思います。

○論述試験

過去問を解いて、先生や友達に添削してもらっていました。それを何度かやり直して、時間内にある程度の文字数を書けるようにしていました。

○二次試験（面接）

特に対策はしていませんでした。レンジャーへの意欲があれば大丈夫だと思います！

●内定までの過ごし方

公務員試験の対策はしていましたが、オンライン形式で行われる環境省の座談会に参加したり、環境省のインターンシップに参加したり、近所の海岸で行われている海岸清掃に参加したりしていました。机に向かって勉強するだけでなく、いろいろなところに顔を出すことを心がけました。

●官庁訪問

とにかく自分がしてきたこと、自分が考えていることを整理しました。また、5回ほどの説明会で、レンジャーに求められるものをまとめ、自分なりのレンジャー像を確立していきました。面接練習はさほどしませんでした。自分なりの軸はしっかりと持ち、面接に挑みました。本番は、何に対しても明るく返答するように心がけました。

●アドバイス・メッセージ

筆記試験の対策はもちろんですが、説明会や霞が関 OPEN ゼミといった環境省主催のイベントにはなるべく参加した方が良いでしょう。また、内定までの過ごし方でも書きましたが、色々なところに顔を出すのはとても重要なことだと思います。色々な人から話を聞いて、自分なりにレンジャーのことを、考える機会を作ることは重要だと思います。それでは、皆様のご健闘をお祈りしています！

内定者 N

(1) 内定者プロフィール

- 最終学歴 大学院修了見込み
- 学年 博士課程 3 年
- 併願先 地方上級（林学）、林野庁
- 参加した説明会・回数
自然系 Web 説明会 計 3 回、官庁合同業務説明会
- 試験区分 林学
- 志望動機

私は幼少期から自然と触れ合うことが好きで、将来は自然に関わる仕事に就きたいと漠然と考えていました。幼い頃は「虫博士になりたい」「魚博士になりたい」ということもありましたが、そして小学生の頃から川の生き物を観察する講座に参加する中で、外来種問題などにも関心を持つようになりました。思えばその頃から、環境省の仕事に興味を抱くようになっていたと思います。大学院時代には、植物生理学について学びました。その際に国立公園でのフィールドワークの機会に恵まれ、生態系の素晴らしさとその保護の重要性を改めて実感しました。自身の経験を活かしながら、多くの人に自然の魅力を感じてもらい、自然を守りたいと心から思ってもらえるように、環境保全に携わっていきたくて考えています。このような思いから、環境省自然系の職を志望いたしました。

(2) 内定者体験記

- 勉強方法
- 基礎能力試験

国家公務員一般職試験の 1 年程前に、大学生協公務員講座に申し込みました。当初は数的推理と判断推理に注力し、それらに計画的に取り組もうと考えていましたが、研究が忙しくて時間を取れず、勉強を充分には進められませんでした。ここは焦りにつながったので大きな反省点です。公務員講座では国家公務員総合職や地方上級向けの応用問題が多く扱われていましたが、講座を受講するにしても問題集に取り組むにしても、まずは基礎的な問題を確実に解けるようにすることが大切だと思いました。2024 年度から問題数が知能問題 24 題、知識問題 6 題の全 30 題に削減されたこともあり、今後も基礎力が一層重要になるのではないのでしょうか。

○専門試験（多肢選択試験・記述試験）

林学については十分な知識を持ち合わせていなかったため、試験本番の半年程前から国家公務員一般職の直近の過去問 10 カ年分を“森林・林業白書”や“森林・林業実務必携”を参考書的に用いながら丁寧に解きました。問題文の正誤のポイントを確認

しながら、付箋を貼るなどして、徹底的にメモを残し、一つの問題から多くを学ぶ姿勢を貫きました。試験の10日程前からは国家公務員総合職の森林・自然環境区分の最近の問題にも挑戦し、解答に確信が持てなかった問題については復習を徹底しました。特に直近の過去問を数カ年分取り組むことで、出題傾向が見えてくる部分もあるので、早めに過去問は収集し、取り組みはじめた方が良いと思います。

●官庁訪問

“訪問者カード”の作成には力を入れました。これまでの経験や自らの考えが、カードだけでも十分に伝わるように推敲を重ねました。面接は得意ではありませんでしたが、カードに書いた内容を淀みなく再現できるように頭にたたきこんで、面接の場でも自然体を保てるように、そして面接官の方々に自分という人間に興味を持っていただけのように努めました。

●内定までの過ごし方、心掛けたこと

大学院での研究が多忙を極めたため、試験勉強や面接準備にかけた実時間はトータルとして多くなかったかもしれません。しかし、その時間的な制約のおかげで、結果的に勉強・準備にメリハリをつけて効率的に取り組めたと思います。内々定をいただくまでも、研究に追われていたので、試験の結果ばかりを気にせずに済みました。結果にとらわれると執着が生まれ、悪いイメージも浮かんできがちなので、目の前の自分がすべきことに集中しました。

●アドバイス・メッセージ

私は新卒採用としては年齢が高い方だと思います。もっと早く挑戦していればと思うこともあります。これまで自らが歩んできた道に悔いはありません。誰もが人生の様々な局面で複数の選択肢に直面しますが、それらはトレードオフの関係にあり、自らの責任でどれか一つを選ばなければいけません。選択の際に大切なのは決して後悔しないことだと思います。まだ入省前ですが、環境省は様々なバックグラウンドを有する多彩な人材が集まった、とても魅力的な職場だと感じています。今後仕事で苦労することもあるかもしれませんが、自らの選択を信じて頑張っていきたいと思います。これから環境省を目指す皆さまも、自らを信じて迷うことなく内定を得るための準備に力を注いでください。皆様のご健闘を心よりお祈りいたしております。

内定者 0

(1) 内定者プロフィール

●最終学歴 大学卒業

●職歴

- ① 動物園の飼育員 (2021 年 4 月～2021 年 7 月)
- ② 水族館の飼育員 (2021 年 8 月～2024 年 3 月)
- ③ 環境省自然保護官補佐 (アクティブ・レンジャー) (2024 年 4 月～2024 年 10 月)

●学年 既卒

●併願先 なし

●参加した説明会・回数

自然系 web 説明会 4 回
自然系 web 座談会・クロストーク 5 回
JOB トーク (web) 2 回
公務研究スタートダッシュ (対面) 1 回
【文理対象】秋の 1Day 職場訪問・仕事体験 (対面) 1 回
霞が関 OPEN ゼミ 2024 (第 1 回～第 3 回) (対面) 1 回ずつ
官庁合同業務説明会 (1 次試験合格者対象) (web) 2 回
オンライン職員訪問 (web) 1 回
計 19 回

●試験区分 林学

●志望動機

私は今ある自然環境を後世に残すために、自然環境と人間活動の双方に有益な社会をつくりたいと考え、環境省を志望しました。

私は野生生物の保全に携わりたいと思い、大学卒業後、飼育員として動物園・水族館に勤務しました。水族館で水生生物の展示管理や保全に携わるなかで、自然環境の保全に取り組む重要性和普及啓発の大切さを再認識し、自然環境の保全に取り組み、日本の生物多様性を守っていきたいと考えるようになりました。その後、転職しアクティブ・レンジャーとして野生生物の保護増殖事業に携わり、人の暮らしや地域の課題があるなかで保護を上手く進めていく重要性を実感しました。次は、自然系職員として日本の自然を守っていきたいです。

(2) 内定者体験記

●勉強方法

○基礎能力

得点源にしやすい数的推理・判断推理・文章理解・資料解釈を中心に勉強しまし

た。「国家一般職〔大卒〕教養試験過去問 500」のみを繰り返し解きました。

○専門多肢選択（林学）

出題頻度の高い分野を優先して勉強するようにしていました。まず、人事院から取り寄せた過去問から、各年の問題がどの分野から出題されているのか（毎年必ず出題される分野や隔年で出題されている分野）をピックアップしました。そして、「森林林業白書」と「森林林業実務必携」の該当部分にマーカーを引いて、何度も見返すようにして勉強しました。

○専門記述（林学）

過去問をみると、記述問題は、「森林林業白書」の「特集」や「トピックス」、「森林及び林業の施策」にあるテーマからの出題が多かったので、白書の該当部分を何度も見返すようにして勉強しました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

周囲の人に自然系職員を目指していることを伝え、後には引けない環境をつくりました。また、働きながらの受験で時間がなかったので、効率を重視して勉強するようにしていました。

●官庁訪問

訪問者カードに書いた内容から、想定質問と回答を考えて挑みました。どうしてそう考えるのか、経験を基に話すことを心がけました。

●アドバイス、メッセージ

私がやってよかったと思うことを2つご紹介します。1つ目は、周囲の人に自然系職員を目指していることを伝え、後には引けない環境をつくったことです。周囲の人に伝えたことで、「言ってしまったから、頑張らないと」と自分自身を鼓舞することができました。また、応援してくださる方が増えたことで、最後まで頑張ることができました。2つ目は、説明会等に複数回参加したことです。複数回参加したことで、なかなか聞くことができない自然系職員の方の体験談をたくさん聞くことができ、業務内容の理解につながりました。

私は昨年も受験をしていて、2度目の受験で内定をいただくことができました。試験申し込みから内定をいただくまでの道のりは長いですが、あきらめずに、時々息抜きをして無理をせずに頑張ってください。皆さまと一緒にお仕事ができる日を楽しみにしています！

巻末資料

令和7年度入省予定の私たちが公務員試験の勉強の際に使用した資料・参考書をご紹介します。ぜひ参考にしてください。

太字：使用人数が多いもの

☆：勉強する際のワンポイントや、内定者が実践した勉強方法など

〈基礎能力試験〉

- ・ **基礎能力試験 過去問（人事院）**
- ・ **国家公務員一般職[大卒]教養試験過去問 500（実務教育出版）**
- ・ **畑中敦子の the best シリーズ（数的推理、判断推理、資料解釈）（エクシア出版）**
- ・ **スーパー過去問ゼミシリーズ（数的推理、判断推理、人文科学、社会科学）**
- ・ **大学生協公務員講座テキスト**
- ・ **公務員試験の教科書 時事本（キャリアード合同会社）**
- ・ **速効の時事（実務教育出版）**

☆ほぼ全員が活用している過去問は人事院宛に請求しますが、手元に届くまでに1～2ヶ月かかるため要注意！

なお、人事院のHPには2023年以降、試験問題が掲載されています。

※一部著作権のため掲載されていない問題もあります。

(https://www.jinji.go.jp/saiyo/siken/mondairei/mondairei_top.html)

〈林学〉

- ・ **林学試験 過去問（人事院）**
- ・ **森林林業白書（林野庁 HP、全国林業改良普及協会）**
- ・ **森林林業実務必携（朝倉書店）**
- ・ 林野庁 HP (<https://www.rinya.maff.go.jp/>)
- ・ 環境省 HP (<https://www.env.go.jp/>)
- ・ 森林総研 HP (<https://www.ffpri.affrc.go.jp/ffpri.html>)
- ・ 国立環境研究所 HP (<https://www.nies.go.jp/>)

☆過去問、白書、実務必携を中心に勉強しつつ、分からないところを各HPで確認！

〈土木〉

- ・ **土木試験 過去問（人事院）**
- ・ **公務員試験 技術系 新スーパー過去問ゼミ（土木）（実務教育出版）**
- ・ **技術系公務員試験 工学の基礎（数学・物理） 攻略問題集（実務教育出版）**

☆過去問を中心に徹底的に取り組み、分からないところは理解するまで解く！

〈農業農村工学〉

- ・ 農業農村工学試験 過去問（人事院）
- ・ 資格試験のための農業農村工学必携（農業農村工学会）
- ・ 食料・農業・農村白書（農水省 HP、日経印刷）
- ・ 農地環境工学（文永堂出版株式会社）
- ・ 土質力学（森北出版株式会社）

☆まずは過去問を活用して出題傾向を把握。その後、得意分野を中心に必携で基礎固め＆分からないところは HP 等で確認がおすすめ◎

〈建築〉

- ・ 建築試験 過去問（人事院）
- ・ 一級建築士製図試験独習合格テキスト（秀和システム）
- ・ 建築職公務員試験 ～専門問題と解答～（大学教育出版）
- ・ 公務員試験 技術系 新スーパー過去問ゼミ 工学に関する基礎（実務教育出版）

☆多肢選択式試験は問題集で基礎力 up & 過去問で実践力 up

記述試験の図面はエスキスに慣れないととても時間がかかるため、早めに着手が吉！

要点記述には一級建築士製図試験独習合格テキストの例文一覧がおすすめ◎

〈面接試験、官庁訪問〉

- ・ 内定者の声（環境省 HP）
- ・ インターンシップでいただいた資料
- ・ 環境・循環型社会・生物多様性白書（環境省 HP、日経印刷）
- ・ 現役人事が書いた「自己 PR・志望動機・提出書類」の本（実務教育出版）
- ・ 現役人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本（実務教育出版）

☆内定者の声を読んだり、説明会に参加したりしてイメージを膨らませつつ、書籍や資料を読んでさらに知識を広げると◎

おわりに

内定者の声を最後まで読んでいただき、ありがとうございます。
この冊子では、今年度の内定者がレンジャーを志望した動機や体験談を紹介しています。
例年と同様、さまざまな経歴を持つ仲間が揃いました。この冊子に目を通していただき皆さんにとって参考となる情報が少しでもあれば幸いです。

環境省レンジャーを目指すにあたり、筆記試験の勉強や面接対策など考えることがたくさんあり、息詰まることもあるかと思います。そんな時は一人で抱え込まず、周りの人たちを頼ってください。友人、家族、恩師、先輩、後輩など少し話してみるだけで頭の中も整理されてスッキリすると思います。公務員試験は長丁場です。もし思うような結果が得られなくても、頑張った事実は消えることはありません。自分を信じることができる、前に進むための材料になります。皆さんが最後まで走り抜けられることをお祈りしております。

今年度から試験の内容や日程が変更しています。来年度受験を予定している方は、採用 HP をこまめにチェックすることをお勧めします。

最後になりますが、環境省レンジャーを目指している皆様と一緒にお仕事ができる日が来ることを楽しみにしております。

令和 7 年度環境省入省予定
一般職自然系内定者一同

※環境省について

環境省職員には総合職と一般職があり、事務系、自然系、理工系の 3 つの職種があります（本省採用の場合）。この冊子は令和 7 年度環境省一般職自然系の内定者が作成しています。環境省における採用に関する情報は以下 HP をご覧ください。

○環境省_採用・キャリア形成支援情報 HP

<http://www.env.go.jp/guide/saiyo/index.html>